

子どもを見る工夫（ことばのたね）

「ころちゃん、ころころお」（3歳児）

刈谷市立富士松北幼稚園（愛知県）



子どもの姿と保育者のかかわり

朝「先生！ころちゃん探しに行こう！」と言うA児。保育者と一緒に見付けに行く。木陰にしゃがみ、A児「ころちゃん、どこなの？」と頬に手をあててダンゴムシに話しかけるように探している。保育者もA児の隣にしゃがみ、木陰に落ちている葉をどかしてみると、2～3匹のダンゴムシが丸まっているのを見付ける。

A児が「ころちゃんいた、いたぁ」とびよんびよん跳びはねて喜ぶ。

保育者「Aちゃん、ダンゴムシいたね！」と言うと、A児は保育者を見てにっこり笑う。

保育者は、ダンゴムシを手のひらに乗せてA児に見せる。

A児、人差し指で触り「ころちゃん、ころころお！」と言って保育者の顔を見る。保育者もA児と同じように触り「ほんとだ！ころころお」と言うと、A児「ねっ！ころころお」と言って保育者に自分の顔を近づけてにっこり笑う。保育者もA児の顔を見てにっこり笑う。



ポイント

3歳児なりに木陰で探したり「ころころお」と表現したりして、興味の対象の特徴をつかんで表現しているA児。寄り添ってありのままに受け止めて共感する保育者の存在により、自分の感じたまを安心して自由に表現することができます。自分でダンゴムシを見つけた喜びは、ダンゴムシへの関心を高めることにも繋がっています。

「ゴーヤ、いつとったらいいの？」

社会福祉法人慈育会 若葉台保育園（福島県）



葉っぱふわふわしてるな

みんな違うかたちしてるよ



子どもの姿と保育者のかかわり

放射線の影響で食することはできないが、植物を育てる楽しさを経験させたいと考え、ゴーヤを育てることにした。

日に日に大きくなる様子に子どもたちも保育者も、「実が落ちてしまうのでは？」と心配だった。そこで、「ゴーヤが大きくなってきたね」と、ゴーヤ会議が開かれ…。

A児：「もう採った方がいいんじゃない？」

B児：「エーッ、だって白いよ」

C児：「このまま大きくなったら、重くて、落っこちちゃったらどうする？」

しばらく考えて…。

D児：「お店に売ってるのと同じくらいになったら、採ればいいじゃん」
保育者は、「どの時期に収穫させればいいのか」と考えた結果、子どもの考えや思いを優先し待つことを選んだ。



ポイント

収穫の時期について考え合うほど、日に日に生長し様子に変化していることを観察し、ゴーヤという植物や栽培活動について、一人ひとりがそれぞれに学んでいる体験が読み取れます。このように栽培活動の過程で、行動を待ったり考え合うきっかけを引き出したりする保育者の援助により、子どもたちが力を発揮できるようにすることが大切です。